

2016全日本ロードレース選手権第5戦 岡山
MFJ-CUP JP250クラス
参戦報告書



■エントリー名:TRICK STAR Racing

■監督:鶴田竜二

■ライダー/ゼッケン :田中 歩 (#82)
兵藤龍之介(#11)
藤村太磯 (#13)

■開催日/サーキット:2016年9月23日(金)~9月24日(土)
:岡山県 岡山国際サーキット

■マシン:カワサキNinja250

■結果:田中歩 予選 5位 (IN 1位) レース 優勝
:兵藤龍之介 予選 49位(IN 13位) レース -
:藤村太磯 予選 10位(NA 5位) レース リタイア

第5戦となる全日本ロードレース選手権併催JP250クラスが岡山国際サーキットにて開催された。予選が2グループに分けられ、20台以上も予選落ちするほど参加者が多かった。田中、兵藤は9月22日のスポーツ走行から参加。予選、決勝に向けてセッティングを行っていった。藤村は9月23日の特別スポーツ走行からの練習となった。



TRICK STAR

【9月24日(土) 公式予選】

Qualify 8:20~8:40 ベストラップ 田中選手 1'49.345
兵藤選手 1'54.912
藤村選手 1'50.496

天候:晴れ コース:ドライ

参加者が多かったため、2グループに分かれ行われた予選。
Aグループに田中、藤村。Bグループに兵藤が参加。予選時間が10分という短さの中、田中は4番手で予選を通過。藤村は10番手であった。
兵藤は2周を走り、ピットイン。フロントのハネが収まらないという症状を訴えた。その後一周のみ計測。しかし予選を通過する事は出来なかった。

【9月24日(土) 決勝レース】

Final 12:15~ 8ラップ ベストラップ 田中選手 1'48.816R
兵藤選手 —
藤村選手 リタイア

天候:晴れ コース:ドライ

天候は予選と同じく晴天、午後になり気温が高くなったサーキットでのレースだった。
レース開始直後、1コーナーでトップが転倒するところから決勝は始まる。田中はうまくかわしそのままトップ集団へ。しかし、藤村は突然のできごとにより判断を誤りコースアウト。そのままリタイアとなってしまった。
途中数台の転倒はあったものの、田中はトップを走っていた為影響はなかった。
その後も、途中順位を入れ替える事はあったが、ほぼトップを走り続ける。終番になり、少しペースを上げる田中。後続車を徐々に離していく。そのままファイナルラップを終え優勝となった。

【9月24日(土)コンソレーションレース】

16:00 5ラップ
天候:晴れ コース:ドライ

6番グリッドから始まった、コンソレーションレース。兵藤は序盤から後続を離していく。
予選落ちが嘘のようであった。
危なげな様子なども特になく、終始安定したレースであった。
2位を突き放したままレースはすすみ、そのまま優勝となった。

【ライダー 兵藤龍之介選手 コメント】

予選49位

路面はドライでした。

今回は予選が10分しかなくとても厳しい予選でした。

予選が始まって一周目にとっても良い集団につけていたのですが、2コーナーでフロントが跳ねてはみ出しそうになり、集団に離されてしまいました。もう一周トライしてみたのですが、走るのに精いっぱい、タイムを縮める事ができませんでした。

良いタイムが出そうになかったので、ピットインして一周だけ計測したのですが、あまりマシンに変化がなく、

症状が治まらないためタイムを縮めることが全くできませんでした。

自分のミスでセットを大きく外してしまい予選落ちしてしまいました。

今までにない悔しさでした。

次こそは自分の弱点を克服し、地元である鈴鹿サーキットでしっかりと練習して、優勝出来るように頑張ります。最後に応援して下さったファンの方、スポンサー様本当にありがとうございました。



【ライダー 藤村太磯選手 コメント】

報告事項

金曜日の特別スポーツ走行からレースウィークを迎えました。午前の走行は雨が降っており、コースを確認しながら走行を行いました。車両に少し違和感を覚えたにも関わらず、少し無理をして操作したためリボルバーコーナーで転倒してしまいました。

ウェット路面でのペースは悪く無かったですし、あくまで練習のための走行だったので無理をせずピットへ戻り、車両の状態をメカニックに伝え、改善を図るべきでした。

午後の走行は、雨が上がり、路面は濡れているものの感覚的にはドライに近い状態で走行が出来ました。午前の走行で転倒した感覚を引きずってしまったため、走り始めはぎこちなかったですが、ピットイン後はいつもの精神状態に近い感覚で走行できました。

予選は、アジア選手権ライダーの前から出走し、抜かれたらすぐに追走できる位置で出走しました。作戦は当たり、追走できる位置で3周程周回できましたが、思ったようにタイヤを使えず、総合10番手に沈んでしまいました。結果的に周囲のペースは予想していたよりも高くなかなかただけにしっかりと走らせていればセカンドローを確保出来たはずです。

予選順位でファーストローもしくはセカンドローを確保していない事が勝ちを狙うライダーとしてふさわしくなかったと思います。

予選から少しセッティングを変更し、サイティングラップでは良さそうな感覚を覚えてスターティンググリッドに付ける事が出来ました。スタートは決まり、少しずつ前のライダーとの差を縮めながら1コーナーに入りました。クリッピングポイントを過ぎ、アクセルが全開近くになっていた時にポールポジションからスタートした選手が転倒しているのが見えました。自分より前のライダーは外側と内側に避けているのが見えました。自分はこの時様々なパターンを考えすぎてしまい判断に時間がかかり過ぎました。自分はコーナーの外側へ避けました。視界を行きたい方向に向けたときにはすでにグラベルの近くを走行していました。その後はグラベルに入ってしまう、脱出を試みましたが、この時のマシンの向きが悪くそのまま進むとスポンジバリアに突っ込んでしまうと判断し、マシンを倒しました。再出走できる状態ではなかったためリタイヤせざるを得ませんでした。

スタート時はいつも通り落ち着いており、決して焦っていたわけではありませんでした。転倒の原因は多くあります。

判断に時間がかかり過ぎミスをした事、その後のリカバー時に視野を広く保っておらず適切な操作をしなかった事、考えている間もアクセルは全開近くを維持しており判断に要する時間を稼がなかった事、予選の順位が悪く波乱が起こりやすい順位からスタートした事などです。

すべて自分に起因する事であり、反省し、2度と同じミスを起こさないように心に誓います。

今回のレースにはメカニック、チームに迷惑をかけてしまい申し訳ない気持ちでいっぱいです。

また、次回のレースはこれまでに学んだ教訓をもう一度振り返り今回のような過ちを起こす事のないように取り組みたいと思います。

応援頂きましたスポンサー様、関係者の皆様に感謝します。ありがとうございました。

